

使用テキスト

配本年度

『新ここからはじまる日本語学』 伊坂淳一(ひつじ書房)

2017年度～

科目概要

日本語とはいかなる言語であるのか、その基本的な構造と特徴を体系的に学ぶだけでなく、日本語をできるだけ客観的に把握する方法を修得する。具体的には、日本語の音韻・文法・語彙などにおける特徴を概観し、それらの言語事象が受講生自らの言語にどのように現れているかを観察させる。そして、その言語事象のさらなる特徴はないか、新たな変化の兆しはないかなどを検討し、自らの日本語がいかに記述できるかという作業を通して、自分の言語と文化を見直す機会とする。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 日本語のしくみを客観的に把握する方法と、それによって得られる日本語の特徴について説明できる。
2. 国語学の方法論によって自らとその周囲の日本語を分析し、現代日本語のさまざまな事象が説明できる。

■ 科目の学習要点事項

1. 国語学とはどのような学問分野か
2. 日本語の音声・音韻 — 日本語の音韻体系とアクセント
3. 日本語の語彙 — 語彙体系と語の意味
4. 日本語の文法 — 文の構造と主語・修飾語
5. 日本語の文字・表記 — 表記の規範性と多様性
6. 日本語の位置 — 付 標準語・共通語・方言

参考文献

- 『言語学大辞典』(三省堂)の「日本語」の項
『日本語文法辞典』日本語文法学会編(大修館書店)
『使い方の分かる類語例解辞典』(小学館)
『敬語』菊地康人(講談社学術文庫)
『方言の地図帳』佐藤亮一監修(小学館)

評価基準

■ レポート評価

指定されたテキストの該当箇所の要点を的確にまとめているか、そして、その理解を踏まえて具体的な例を分析できているかを評価する。

■ 科目終了試験評価

科目の要点事項に即して学習の到達度を測るものである。テキストの内容の理解を踏まえた説明がなされているかを評価する。

使用テキスト

配本年度

『標準古典文法』市川孝、山内洋一郎監修(第一学習社)

2011年度～

科目概要

日本語文法総体の基礎知識を概観し、主として古典文学の解釈に必要な文法事項について、動詞・助動詞を中心に学んでゆく。現代語の文法と対比しつつ、古典文法の分析・考察の仕方を身につけるとともに、古典を読解する力の向上を図ることが目標である。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 教職(国語科)履修者必修科目であることを鑑み、学習指導要領の内容を踏まえて、教授者の立場から古典文法を解説できる。
2. 中学・高校生に対して、動詞・助動詞の用法が分かりやすく説明できる。

■ 科目の学習要点事項

1. 現代文法と古典文法の違いを把握する。
2. 古典文法における動詞の用法について説明できるようにする。
3. 古典文法における形容詞・形容動詞の用法について説明できるようにする。
4. 古典文法における助動詞の用法について説明できるようにする。
5. 古典文法における副詞・連体詞・接続詞・感動詞の用法について説明できるようにする。
6. 音便について説明できるようにする。

参考文献

『基礎からの古典文法』市川孝、山内洋一郎監修(第一学習社)

『古典にいざなう新古典文法』北原保雄編(大修館書店)

評価基準

■ レポート評価

学習者にとって、より理解しやすい方法で説明されているということ。

■ 科目終了試験評価

学習した内容が分かりやすく説明できているかどうか。

『標準古典文法』市川孝、山内洋一郎監修(第一学習社)

2011年度～

科目概要

日本語文法総体の基礎知識を概観し、主として古典文学の解釈に必要な文法事項について、助詞・敬語・修辭法・紛らわしい語の識別を中心に学んでゆく。現代語の文法と対比しつつ、古典文法の分析・考察の仕方を身につけるとともに、古典を読解する力の向上を図ることが目標である。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 教職(国語科)履修者必修科目であることを鑑み、学習指導要領の内容を踏まえて、教授者の立場から古典文法を解説できる。
2. 中学・高校生に対して、助詞・敬語・修辭法・紛らわしい語の識別が分かりやすく説明できる。

■ 科目の学習要点事項

1. 助詞について説明ができるようになる。
2. 敬語(尊敬・丁寧・謙讓)について説明できるようになる。
3. 二方面に対する敬語表現について説明できるようになる。
4. 修辭法(枕詞・序詞・掛詞・縁語)について説明できるようになる。
5. 紛らわしい語の識別について説明できるようになる。

参考文献

『古典にいざなう新古典文法』北原保雄編(大修館書店)

『先生のための古典文法Q&A100』中村幸弘(右文書院)

『高校生のための古文キーワード100』鈴木日出男(ちくま新書)

評価基準

■ レポート評価

学習者にとって、より理解しやすい方法で説明されているということ。

■ 科目終了試験評価

学習した内容が分かりやすく説明できているかどうか。

使用テキスト

配本年度

『日本語表現法』 沖森卓也・半沢幹一(三省堂)

2011 年度～

科目概要

日本語の表現法の基礎を実践的に学ぶ。日本語の基礎的知識を踏まえた上で、実用的な文章からレポート・論文等の文章作成の基本事項を修得し、具体的な問題設定と材料の組み立てを意識した課題レポートを作成する。また、書き言葉と話し言葉の差異を理解し、日常会話の表現技術を確かめるとともに、口頭発表や討論などにおける効果的な表現を修得する。併せて、日本語の表現力をさらに高めるべく、辞書の使い方やワープロの利用法等についても言及する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 日本語表現の特徴を具体的に理解し、説明できる。
2. 日本語表現の特徴を活かした効果的な表現で文章を叙述することができる。
3. 口頭発表や討論などにおいて適切な話し言葉で表現できる。

■ 科目の学習要点事項

1. 日本語表現の特質と表記
2. 日本語の文章の種類と表現
3. レポート・論文の実践 — 構想・材料収集・構成・表現
4. 話し言葉の表現 — 話し言葉と書き言葉の違い・口頭発表と討論

参考文献

『日本語学大辞典』日本語学会編(東京堂出版)

『現代国語表記辞典』武部良明編(三省堂)

『類語大辞典』柴田武・山田進編(講談社)

『日本語案内』中村明(ちくま新書)

『敬語』菊地康人(講談社学術文庫)

評価基準

■ レポート評価

いずれのレポートも表現の実践であり、それぞれの課題に対して適切な内容と表現で回答しているかを評価する。

■ 科目終了試験評価

科目の要点事項に即して学習の到達度を測るものである。テキストの内容の理解を踏まえた説明がなされているかを評価する。

使用テキスト

配本年度

『精選 国語総合〔改訂版〕古典編』岩間輝生、木村博、鈴木日出男ほか編(筑摩書房、2011) ~2012年度

『精選 国語総合 古典編』岩間輝生、木村博、鈴木日出男ほか編(筑摩書房、2013) 2013年度~2016年度

『精選 国語総合 古典編』安藤宏ほか編(筑摩書房、2016) 2017年度~

科目概要

日本の古代から近世までの代表的な文学作品を原典で講読する。日本最古の作り物語である『竹取物語』や随筆『枕草子』から俳文『奥の細道』まで、個別の作品読解を通じて、その諸相を確認してゆく。古語辞典を引きながら、テキストをひとつずつ味読し、それぞれの学習者が基本的な文学史観を形成できるよう心掛ける。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 日本の代表的な古典を取り上げ、文学史を概観する説明ができるようになる。
2. 日本の代表的な古典の名場面を、教壇に立って、教えることができる知識を身に付ける。

■ 科目の学習要点事項

1. 『竹取物語』(かぐや姫の誕生)を読み解く。
2. 『伊勢物語』(芥川)を読み解く。
3. 『伊勢物語』(筒井筒)を読み解く。
4. 『土佐日記』(門出)を読み解く。
5. 『徒然草』(花は盛りに)を読み解く。
6. 『方丈記』(ゆく河の流れ)を読み解く。
7. 『平家物語』(木曾の最期)を読み解く。
8. 『万葉集』を読み解く。
9. 『古今和歌集』を読み解く。
10. 『新古今和歌集』を読み解く。
11. 『奥の細道』(序)を読み解く。
12. 『奥の細道』(平泉)を読み解く。

参考文献

- ①『新日本古典文学大系』(岩波書店)
- ②『新編日本古典文学全集』(小学館)
- ③『日本古典文学大辞典』(岩波書店)
- ④『日本古典文学史』乾安代ほか著(双文社出版)
- ⑤『はじめて学ぶ日本文学史』榎本隆司編(ミネルヴァ書房)

評価基準

■レポート評価

文法に忠実な現代語訳になっていること。また、感想は、自分自身の視点が打ち出せていること。全体像および文学史的背景は、的確な把握ができていること。

■科目終了試験評価

試験問題で指定した作品(学習要点事項に挙げられた12の作品の中から選ばれる)についての内容と文学史的な位置付けが把握できていること。当該作品について、自分自身の観点から考察されているかどうか。

使用テキスト

配本年度

『日本古典文学史』乾安代、櫻井武次郎、新聞一美、西島孜哉、毛利正守(暁印書館) 2011年度～2016年度
 『社会人のためのビジュアルカラー国語百科』大修館書店編集部編(大修館書店) 2017年度～

科目概要

日本の上代から近世までの代表的な文学作品を概観する。現存最古の古典である『古事記』や随筆『枕草子』から俳文『奥の細道』まで、日本文学がどのように生まれ、どのように展開したのかを、主として、ジャンルの生成という観点から捉え、その諸相を確認してゆく。それぞれの学習者が基本的な文学史観を形成できるよう心掛ける。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 日本の代表的な古典を取り上げ、文学史を概観する説明ができるようになる。
2. 日本古典文学における様々なジャンルへの理解を深める。

■ 科目の学習要点事項

1. 国文学史における神話・伝説の展開を理解する。
2. 国文学史における和歌の展開を理解する。
3. 国文学史における伝奇物語の展開を理解する。
4. 国文学史における歌物語の展開を理解する。
5. 国文学史における日記文学の展開を理解する。
6. 国文学史における随筆の展開を理解する。
7. 国文学史における『源氏物語』の位置を理解する。
8. 国文学史における説話集の展開を理解する。
9. 国文学史における軍記物語の展開を理解する。
10. 国文学史における能・狂言と浄瑠璃・歌舞伎の展開を理解する。
11. 国文学史における俳文学の展開を理解する。
12. 国文学史における近世の小説の展開を理解する。

参考文献

『岩波講座 日本文学史』(岩波書店)
 『日本文学史』久保田淳編(おうふう)
 『はじめて学ぶ日本文学史』榎本隆司編(ミネルヴァ書房)

評価基準

■ レポート評価

代表的な作品が取り上げられていること。各々の作品の内容が理解され、適切に位置づけられていること。

■ 科目終了試験評価

出題されたジャンルに相応しい作品が取り上げられていること。各々の作品の内容が理解され、適切に位置づけられていること。

使用テキスト

配本年度

『日本近代短篇小説選 昭和篇 2』紅野敏郎、紅野謙介、千葉俊二、宗像和重、山田俊治(岩波文庫)

2018年度～

科目概要

敗戦から米軍占領期が終わるまでに発表された作品を取り上げることで、戦争と関わった文学者たちが戦争の記憶をどのように作品に記録し、敗戦後の新たな社会状況の中でどのように表現したのか、作品から多角的に読み取りたい。日本社会の復興期を背景に、〈戦後文学〉といわれる作品が提示している世界観を概観していく。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 取り上げている作家の生涯と作品を理解する。
2. 敗戦後の社会状況を調べて作品に取り組み、作品が発しているメッセージを理解する。
3. 作品から読み取ったことに対する自分自身の意見を提示し論じる。

■ 科目の学習要点事項

1. 中里恒子の生涯を理解し作品を読む
2. 石川淳の生涯を理解し作品を読む
3. 原民喜の生涯を理解し作品を読む
4. 坂口安吾の生涯を理解し作品を読む
5. 野間宏の生涯を理解し作品を読む
6. 梅崎春生の生涯を理解し作品を読む
7. 尾崎一雄の生涯を理解し作品を読む
8. 武田泰淳の生涯を理解し作品を読む
9. 永井龍男の生涯を理解し作品を読む
10. 林芙美子の生涯を理解し作品を読む
11. 大岡昇平の生涯を理解し作品を読む
12. 長谷川四郎の生涯を理解し作品を読む
13. 安部公房の生涯を理解し作品を読む

参考文献

『日本近代文学大事典』(講談社)

『現代日本文学大事典』(明治書院)

『日本近代小説史』(中央公論新社)

評価基準

■ レポート評価

取り上げた作家の生涯と作品が的確に要約され、作品を読みとり自分自身の見解が述べられていること。

■ 科目終了試験評価

試験問題で指定した作家の生涯をふまえて、作品についての自分自身の見解が述べられていること。

使用テキスト

配本年度

『あたらしい国語科指導法―五訂版』柴田義松、阿部昇、鶴田清司編(学文社)

2019 年度～

科目概要

中学校・高等学校の国語科教員を目指すうえで必要な知識や教養を学ぶ。国語力は、あらゆる科目の基礎となる力である。国語科を教える者には、それ相応の重い責任が課せられていると言える。その国語科教育の意義や目標。そもそも国語科とは、どういう科目であり、生徒への教示を通じて何ができるのか、などを考える。中学校・高等学校の学習指導要領を紐解きつつ、これからの国語科教育のあるべき姿を探ってゆく。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 国語科教育の意義・内容について理解する。
2. 国語科教育の基本的な方法を身に付ける。
3. 新しい国語科教育の授業実践を知る。

■ 科目の学習要点事項

1. 「ことばを学ぶこと・ことばを教えること」とはどういうことかを理解する。
2. 国語科教育の目的を理解する。
3. 戦後の「学習指導要領」の変遷を理解する。
4. 国語科教育の内容と方法(音声言語の場合)を理解する。
5. 国語科教育の内容と方法(文学作品の場合)を理解する。
6. 国語科教育の内容と方法(説明的文章の場合)を理解する。
7. 国語科教育の内容と方法(作文の場合)を理解する。
8. 国語科教育の内容と方法(読書指導の場合)を理解する。
9. 国語科教育の内容と方法(古典の場合)を理解する。
10. メディアリテラシーと国語科教育について理解する。
11. ディベートと国語科教育について理解する。
12. 「言語活動」の充実と国語科教育について理解する。

参考文献

- 『中学校学習指導要領 国語編』(文部科学省)
『高等学校学習指導要領 国語編』(文部科学省)
『実践 国語科教育法』町田守弘編著(学文社)

評価基準

■ レポート評価

テキストの内容が的確に理解され、全体としてバランスよく簡潔に整理されていること。

■ 科目終了試験評価

出題された問題の主旨を正しく理解し、説明ができていること。

使用テキスト

配本年度

『日本古典文学 Next 教科書シリーズ』 近藤健史編(弘文堂)

2016 年度～

科目概要

古典文学の古代から近世までの各時代の代表的な作品を読む。文学の諸ジャンルが、歴史的、文化的な背景の中で、どのように生成し展開してきたのか。それぞれが何を受容し、輻湊してきたか。その様相を概観する。また、作品をどう読むか、そのために必要な時代背景や成立事情、内容や特色、主題を捉える。

言葉の豊かさが忘れがちな今日、各自が、古典の言葉の持つ力、古典を読む楽しさや意義を再発見し、古典の継承と発展について考える態度を培うことが期待される。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 文学の諸ジャンルが、どのように生成し展開してきたのか。その概観について説明できる。
2. 必要な時代背景や成立事情、内容や特色、主題を捉える。
3. 古典文学の古代から近世の各時代の代表的な作品を読み、理解を深める。
4. 古人のものの見方や考え方を想像したり受容したりすることを通し、古典の言葉の持つ力や豊かさ、古典を読む楽しさや意義、古典の継承と発展について、学習指導要領の内容を踏まえ、教授者の立場から解説できる。

■ 科目の学習要点事項

1. 古代、中古、中世、近世の文学概観を理解する。
2. 万葉集、古今集、新古今集を軸として和歌世界の展開を理解する。
3. 土佐日記、伊勢物語、源氏物語を軸として仮名文学の発達を理解する。
4. 枕草子、方丈記、徒然草を軸として随筆世界の展開を理解する。
5. 大鏡、平家物語を軸として歴史物語、軍記物語の世界を理解する。
6. 西鶴、近松を軸として近世文学の世界を理解する。
7. 近代以降における古典文学の受容を理解する。

参考文献

『新編古典文学全集』(小学館)

『新日本古典文学大系』(岩波書店)

『社会人のためのビジュアルカラー国語百科』(大修館書店)

『日本文学史』小西甚一著(講談社学術文庫)

■レポート評価

レポート1単位目

- ・中古文学がどのように成立し、どのような展開を遂げたか、概要を捉えることができる
- ・源氏物語、古今集にみられる中古文学としての特徴を明らかにしている。

レポート2単位目

- ・中世文学がどのように成立し、どのような世界観を有していたか、概要を捉えることができる。
- ・方丈記、徒然草に共通する要素とそれぞれの特徴を明らかにしている。

■科目終了試験評価

- ・テキストの各内容項目について理解している。
- ・各項目について自分の立場から考察している。

使用テキスト

配本年度

『芥川龍之介全集1』芥川龍之介(ちくま文庫)

2018年度～

科目概要

大正期の代表的な作家である芥川龍之介の初期の作品で、教科書で広く知られている作品を中心に取り上げて読み解いていく。『羅生門』や『鼻』などの作品をはじめ、芥川龍之介の作品世界を概観することで、芥川が近代文学に与えた影響の大きさを理解する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 近代文学の変遷を作家の活動時期や作品から理解する
2. 近代文学を代表する作家芥川龍之介の生涯と作品を理解し、作品について自分自身の見解を述べられるようにする。

■ 科目の学習要点事項

1. 『老年』を読み解く
2. 『ひよっとこ』を読み解く
3. 『仙人』を読み解く
4. 『羅生門』を読み解く
5. 『鼻』を読み解く
6. 『野呂松人形』を読み解く
7. 『芋粥』を読み解く
8. 『手巾』を読み解く
9. 『煙草と悪魔』を読み解く
10. 『煙管』を読み解く
11. 『運』を読み解く
12. 『二つの手紙』を読み解く

参考文献

『芥川龍之介 全作品辞典』関口安義、庄司達也(勉誠出版)

『芥川龍之介の世界』中村真一郎(岩波書店)

『芥川龍之介ハンドブック』庄司達也(鼎書房)

評価基準

■ レポート評価

芥川龍之介の生涯と作品が的確に要約され、作品に対する自分自身の見解が述べられていること。

■ 科目終了試験評価

試験問題で指定した作品の内容を理解し、作品に対する自分自身の見解が述べられていること。

使用テキスト

配本年度

『新人教師のための漢文指導入門講座』塚田勝郎著(大修館書店)

2019 年度～

科目概要

万葉集、祝詞、宣命など、日本でも仮名文字が発達する以前には、漢字をそのまま使って、文字を綴った時代があった。その後、仮名文字の導入を通じて、日本における漢文は、中国とは異なる、日本独特のものへと変化していった。そうした日本の古典としての漢文について、ここでは代表的なものを学び、教材としてのあり方を考える。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 教職(国語科)履修者必修科目であることに鑑み、学習指導要領の内容を踏まえて、教授者の立場から漢文を解説できる。
2. 漢文の基本的な訓読法を身に付け、有名な故事成語や漢詩が、中学・高校生に対して分かりやすく説明できる。

■ 科目の学習要点事項

1. 訓読の基本を理解する。
2. 漢文指導の準備について理解する。
3. 「矛盾」を読む。
4. 「先従隗始」を読む。
5. 漢詩を読む。
6. 『論語』を読む。
7. 「雑説」を読む。

参考文献

『漢文学習ハンドブック』田部井文雄、菅野禮行、江連隆、土屋泰男(大修館書店)

『漢文の読みかた』奥平卓(岩波書店)

『新字源』小川環樹、西田太一郎、赤塚忠編(角川書店)

『漢文入門』小川環樹、西田太一郎著(岩波書店)

『中国文学概論』岩城秀夫著(朋友書店)

※『学習指導要領』(文部科学省 HP を参照して下さい)

評価基準

■ レポート評価

基本的な訓読、句法や語句が取り上げられ、内容についての指導のポイントが学習指導要領を踏まえて分かりやすく説明してあるかどうかを評価する。

■ 科目終了試験評価

出題内容が理解され、テキストの内容の理解を踏まえた説明がなされているかどうかを評価する。

使用テキスト

配本年度

『書の古典と理論』 全国大学書道学会編(光村図書出版)

2016年度～2020年度

『書の古典と理論 改訂版』 全国大学書道学会編(光村図書出版)

2021年度

科目概要

書を習うにあたって、技法の習得のみならず中国・日本の歴史をふりかえり、作品が書かれた背景や作者の人物像を探って、心豊かに学んでいく。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 用具・用材の種類や特徴を理解し、適切に扱うことができるようになる。
2. 漢字・仮名の成立を理解し、書体や時代による書風の変化を理解する。
3. 日常的に、手習い(実技)・目習い(鑑賞)に取り組み、書の技法を習得する。

■ 科目の学習要点事項

日常の継続的な学習が不可欠です。まず、テキスト(理論編)を熟読してください。次にテキスト(古典編)に載っている作品を鑑賞し、順に半紙に4字、または6字で臨書をしてください(テキストを拡大コピーして利用しても結構です)。「学習のポイント」などを踏まえ、繰り返し取り組んで、筆先の動きや線質の違いなどを学んでください。

1. 書の用具・用材と執筆法
2. 内容の理解と実技・鑑賞(篆書)
3. 内容の理解と実技・鑑賞(隸書)
4. 内容の理解と実技・鑑賞(草書)
5. 内容の理解と実技・鑑賞(行書)
6. 内容の理解と実技・鑑賞(王羲之の書)
7. 内容の理解と実技・鑑賞(楷書)
8. 内容の理解と実技・鑑賞(創作・漢字仮名交じり書(調和体))
9. 内容の理解と実技・鑑賞(仮名の書)
10. 「書写・書道教育」の実践と工夫

参考文献

- 『中学校 学習指導要領解説 国語編』(文部科学省)
 『高等学校 学習指導要領解説 芸術編』(文部科学省)
 『書の総合事典』(柏書房 2010)
 『書の百科』(芸術新聞社 2010)
 『書道テキスト』(大東文化大学書道研究所 2006～2011)
 『決定版 中国書道史』(芸術新聞社 2009)
 『決定版 日本書道史』(芸術新聞社 2009)
 『書道講座』新装版(二玄社 2009)

評価基準

■レポート評価

1. テキストの内容を的確に理解し、まとめられていること。
2. 日頃から手習い・目習いに取り組み、自分自身の見解が述べられていること。

■科目終了試験評価

1. テキストの内容が的確に理解されていること。
2. 日頃から手習い・目習いにおける学習成果が反映されていること。

使用テキスト

配本年度

『書の古典と理論』 全国大学書道学会編(光村図書出版)

2019 年度～2020 年度

『書の古典と理論 改訂版』 全国大学書道学会編(光村図書出版)

2021 年度

科目概要

先人の優れた書跡を通じて様々な表現を習得するとともに、書道史や書論にも触れ、作品が書かれた背景や人物像などに迫り、書の伝統と文化について学んでいく。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 様々な古典、古筆の臨書・鑑賞を通じて、書風の違いや作品が書かれた背景を理解する。
2. 中国書道史・日本書道史を通じて、書の変遷を理解する。
3. 日常的に、手習い(実技)・目習い(鑑賞)に取り組み、書の技法を習得する。

■ 科目の学習要点事項

日常の継続的な学習が不可欠です。まず、テキスト(理論編)を熟読してください。次にテキスト(古典編)に載っている下記の作品を重点的に鑑賞し、漢字の場合は半紙に4字、または6字で臨書してください(テキストを拡大コピーして利用しても結構です)。仮名の場合は、小筆で原寸臨書をしてください。「学習のポイント」などを踏まえ、繰り返し取り組み、筆先の動きや線質の違いを学んでください。テキスト(資料編・書道史年表)にも目を通し、書道史全体の流れを把握してください。

1. 文字の意義と漢字の特質(「六書」について)
2. 書の意義と特質(書の特質と書の成立要件)
3. 内容の理解と実技・鑑賞(唐の四大家)
4. 内容の理解と実技・鑑賞(書譜)
5. 内容の理解と実技・鑑賞(宋の三大家)
6. 内容の理解と実技・鑑賞(帖学派・碑学派)
7. 内容の理解と実技・鑑賞(篆刻の歴史・印の種類)
8. 内容の理解と実技・鑑賞(三筆・三跡)
9. 内容の理解と実技・鑑賞(三色紙・散らし書き)
10. 内容の理解と実技・鑑賞(漢字仮名交じり書(調和体)・著作権)
11. 中国と日本の書論(『書譜』・五合五乖)
12. 書写書道教育の実践と工夫

参考文献

- 『中学校 学習指導要領解説 国語編』(文部科学省)
『高等学校 学習指導要領解説 芸術編』(文部科学省)
『書の総合辞典』(柏書房 2010)
『書の百科』(芸術新聞社 2010)
『書道テキスト』(大東文化大学書道研究所 2006～2011)
『決定版 中国書道史』(芸術新聞社 2009)
『決定版 日本書道史』(芸術新聞社 2009)
『書道講座』新装版(二玄社 2009)
『書譜 孫過庭 (21)シリーズ一書の古典一』(天来書院 2017)
『彩りの書 美術工芸に親しむ』(教育図書 2016)

評価基準

■レポート評価

1. テキストの内容を的確に理解し、自分の言葉でまとめられていること。
2. 日頃から手習い・目習いに取り組み、自分自身の見解が述べられていること。

■科目終了試験評価

1. テキストの内容が的確に理解されていること。
2. 日頃からの手習い・目習いにおける学習成果が反映されていること。

使用テキスト

配本年度

『名指導書で読む なつかしの高校国語』 筑摩書房編(ちくま学芸文庫)

2012 年度～

科目概要

実際の授業を想定して、小説、随想の教材研究を行う。作者研究と作品鑑賞、叙述と注解などの方法を学ぶ。取り上げる作品は、いわゆる定番教材の中から、小説が芥川龍之介『羅生門』、夏目漱石『夢十夜』『こころ』、中島敦『山月記』、太宰治『富岳百景』、森鷗外『舞姫』、魯迅『藤野先生』、随想が柳田国男『清光館哀史』、夏目漱石『現代日本の開化』。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 小説および随想の教材研究の基本的な方法を身に付ける。
2. 小説および随想の学習指導案が作成できるようになる。

■ 科目の学習要点事項

1. 芥川龍之介『羅生門』の教材研究および学習指導案の作成を行う。
2. 夏目漱石『夢十夜』の教材研究および学習指導案の作成を行う。
3. 中島敦『山月記』の教材研究および学習指導案の作成を行う。
4. 太宰治『富岳百景』の教材研究および学習指導案の作成を行う。
5. 夏目漱石『こころ』の教材研究および学習指導案の作成を行う。
6. 森鷗外『舞姫』の教材研究および学習指導案の作成を行う。
7. 魯迅『藤野先生』の教材研究および学習指導案の作成を行う。
8. 柳田国男『清光館哀史』の教材研究および学習指導案の作成を行う。
9. 夏目漱石『現代日本の開化』の教材研究および学習指導案の作成を行う。

参考文献

- 『〈新しい作品論〉へ、〈新しい教材論〉へ』[小説編]第1巻～第6巻、須貝千里、田中実編(右文書院)
 『文学の力×教材の力』[中学校編]第1巻～第3巻、田中実、須貝千里編(教育出版)
 『学習指導案作成教本 国語科』(蒼丘書林)
 『中学校学習指導要領 国語編』(文部科学省)
 『高等学校学習指導要領 国語編』(文部科学省)

評価基準

■ レポート評価

実際に教壇に立って、授業を行うことのできる水準であること。

■ 科目終了試験評価

国語科における定番教材(小説・随想)の基本的な知識が身に付いているかどうか。

使用テキスト

配本年度

『名指導書で読む なつかしの高校国語』 筑摩書房編(ちくま学芸文庫)

2012 年度～

科目概要

実際の授業を想定して、評論、詩歌の教材研究を行う。作者研究と作品鑑賞、叙述と注解などの方法を学ぶ。取り上げる作品は、いわゆる定番教材の中から、評論が清岡卓行『失われた両腕』、坂口安吾『ラムネ氏のこと』、小林秀雄『無常ということ』、丸山真男『「である」ことと「する」こと』、詩歌が宮沢賢治『永訣の朝』『一本木野』、谷川俊太郎『ネロ』、吉野弘『I was born』、斎藤茂吉『死にたまふ母』

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 評論および詩歌の教材研究の基本的な方法を身に付ける。
2. 評論および詩歌の学習指導案が作成できるようになる。

■ 科目の学習要点事項

1. 清岡卓行『失われた両腕』の教材研究および学習指導案の作成を行う。
2. 坂口安吾『ラムネ氏のこと』の教材研究および学習指導案の作成を行う。
3. 小林秀雄『無常ということ』の教材研究および学習指導案の作成を行う。
4. 丸山真男『「である」ことと「する」こと』の教材研究および学習指導案の作成を行う。
5. 宮沢賢治『永訣の朝』『一本木野』の教材研究および学習指導案の作成を行う。
6. 谷川俊太郎『ネロ』の教材研究および学習指導案の作成を行う。
7. 吉野弘『I was born』の教材研究および学習指導案の作成を行う。
8. 斎藤茂吉『死にたまふ母』の教材研究および学習指導案の作成を行う。

参考文献

『〈新しい作品論〉へ、〈新しい教材論〉へ』[評論編]第1巻～第4巻、須貝千里、田中実編(右文書院)
 『展望・現代の詩歌』第1巻～第11巻、飛高隆夫、野山嘉正編(明治書院)
 『学習指導案作成教本 国語科』(蒼丘書林)
 『中学校学習指導要領 国語編』(文部科学省)
 『高等学校学習指導要領 国語編』(文部科学省)

評価基準

■ レポート評価

実際に教壇に立って、授業を行うことのできる水準であること。

■ 科目終了試験評価

国語科における定番教材(評論・詩歌)の基本的な知識が身に付いているかどうか。

使用テキスト**配本年度**

『国語科指導法の実践と資料』 大柳勇治、堀江忠道、山本伸二 編著(双文社出版) 2012年度～2016年度
『実践国語科教育法「楽しく、力のつく」授業の創造』 町田守弘編著(学文社) 2017年度～2020年度
『第3版 実践国語科教育法「楽しく、力のつく」授業の創造』 町田守弘編著(学文社) 2021年度

科目概要

中学校・高等学校の国語科教員として、教壇に立つための準備を整える。教育現場において必要なのは机上の理論ではなく、実際の中でどう取り組むかという実践力である。その実践力ということ意識して、国語科教育法学習の総仕上げを行う。

学習上の目標**■ 科目の到達目標**

1. 国語科教員として教壇に立つ際に必要な事項を総点検する。
2. 教室で適切に、ひと通りの授業ができるようになる。

■ 科目の学習要点事項

1. 今、求められる教師像を理解する。
2. 学習指導案の書き方を身に付ける。
3. 国語科教材の評価規準を知る。
4. 教育実習期間中の心構えを知る。
5. 指導の実際(中学校)を知る。
6. 指導の実際(高等学校)を知る。
7. 学習評価の方法を知る。
8. 新しい時代の国語教育を知る。
9. 国語科教育の現状と課題について考える。

参考文献

『あたらしい国語科指導法』柴田義松、阿部昇、鶴田清司編(学文社)
『学習指導案作成教本 国語科』(蒼丘書林)
『中学校学習指導要領 国語編』(文部科学省)
『高等学校学習指導要領 国語編』(文部科学省)

評価基準**■ レポート評価**

一人前の教員として認められる水準にあること。

■ 科目終了試験評価

出題された問題の主旨を正しく理解し、それに応じていること。